

高倉だより



評価特集号

令和元年 12月1日

京都市立高倉小学校

～令和元年度 前半学校評価結果を お知らせします～

毎年、年度の前半・後半に一度ずつ、学校評価アンケートを実施し、学校評価の大切な指標として皆様のご意見を本校教育に生かす取組を進めています。前半評価は、教育年間計画に沿った教育活動の実践の中間点検にあたります。

令和元年度 前半学校評価の取組

今年度も、評価項目については、年度当初にお配りした「高倉小の教育」リーフレットの各ページにある「評価のポイント」をもとに設定しました。それは、昨年度からの経年変化もみていきたいと考えたからです。なお、今年度もスマイル評価部会による検討会におきまして、質問項目の検討や結果の分析を行いました。



学校教育目標

よりよい生き方を求めて、誇りをもち、未来にはばたく高倉の子
豊かに学び、表現し、高め合う姿をめざして～

【令和元年度 前半学校評価の流れ】

4月 教育計画・評価計画
↓
6月 アンケート項目の検討
↓
7月 アンケート実施（児童・保護者・教職員）
↓
7～8月 アンケート集計・分析
↓
8月 校内評価（「自己評価」）
↓
10月 スマイル「評価部会」による検討会
↓
10月 学校関係者による評価
「スマイル21プラン委員会拡大理事会」において

評価項目と集計結果（H. 30後半との比較）

◎…プラス評価 90% ○…80～90% 80%未満は数字

3%以上上昇 3%以上下降

▶5分野 21項目

▶4段階評価（そう思う・だいたいそう思う…**プラス評価**
あまりそう思わない・そう思わない…**マイナス評価**）

<確かさを育む教育>

	30後半			R1前半		
	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
① 学校の勉強がよくわかる	◎	○	◎	◎	○	◎
② 自分の思いや考えをすすんで伝え合う	○	○	◎	○	○	◎
③ 家庭での読書を楽しむ	62.1%	50.2%	58.1%	75.4%	61.3%	66.7%
④ 家庭学習	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑤ 最後までやりぬく	◎	○	◎	◎	○	◎
⑥ 見通しをもって学習（学習予定表の活用）	○	59.0%	○	○	63.4%	◎
⑦ 授業中の約束守って、集中して	◎	○	◎	◎	◎	◎

全体として

- ほとんどの項目でプラス評価となっている。
- 昨年度（後半）と比較すると、ほとんどの項目で「同等」もしくは「上昇傾向」にある。下降傾向のものも著しいものは見られない。

- 全項目中、最もマイナス評価傾向が強い。しかし、スマイル評価部会での検討で質問項目を変更したこともあり、昨年度と比べると、三者ともかなりの上昇傾向が見られた。読書に関する関心と意欲が高いことがわかる結果となった。

- 保護者の評価にややマイナス傾向が見られたが、児童、教職員の評価は、上昇していた。

- 児童、保護者ともにプラス評価が増えたが、25%前後のマイナス評価が見られる。教職員の評価についてはやや下がっていた。

- 保護者の評価が3.2ポイント下降していた。児童、教職員の評価は、横ばいであった。

- 他の項目に比べると、保護者が少し低い。しかし、児童の評価は年々上昇している。教職員のポイントが高いのは他校に比べて高倉小学校はかなり地域学習に力を入れていると感じているからである。

<豊かさ・たくましさを育む教育>

	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
① 学校生活が楽しい・安心	○	○	○	◎	◎	◎
② 思いやりのある温かい言葉づかい	◎	○	◎	◎	○	◎
③ 友達と大切にし合う	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 学校の決まりを守って行動	◎	◎	○	◎	◎	○
⑤ 放課後・休みの日ルールを守る	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑥ 学校・家・地域でのあいさつ	◎	○	65.9%	◎	79.8%	74.4%

<健やかな心と体を育む教育>

	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
① すすんで外遊び	73.6%	66.2%	◎	76.1%	74.0%	○
② 食事の好き嫌がなく楽しく	○	79.6%	◎	○	76.4%	◎
③ 朝ご飯	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 安全な登下校	◎	◎	79.4%	◎	◎	◎
⑤ 自分の心や体を大切に	◎	○	◎	◎	○	◎

<高倉小の特色ある教育>

	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
① 地域学習・伝統文化の学習に興味をもって	○	74.6%	◎	○	78.5%	◎

<学校・家庭の連携>

	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
① 先生に話をしたり相談したり	73.9%	◎	◎	79.3%	◎	◎
② おうちの人に話をしたり相談したり	◎	◎	◎	◎	◎	◎



裏面では、で囲った箇所に
について詳しくご報告します。

アンケート結果より（三者比較）

児童
結果

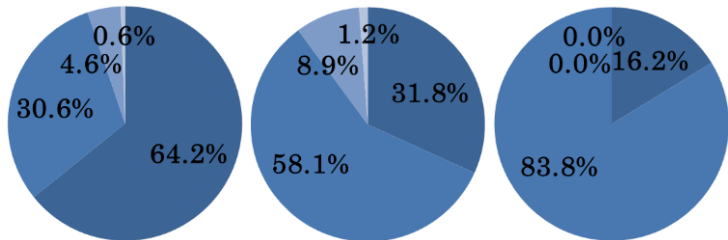
保護者
結果

教職員
結果

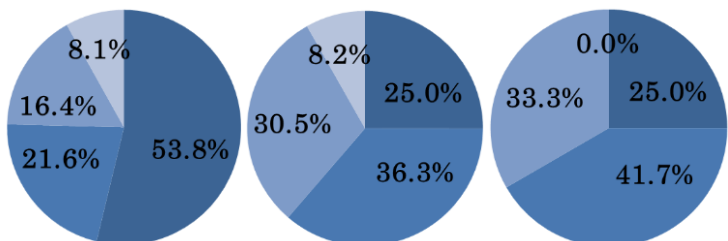
■ そう思う ■ だいたいそう思う
■ あまりそう思わない □ そう思わない

確かさを育む教育について

Q. 学校の勉強がよくわかりますか。

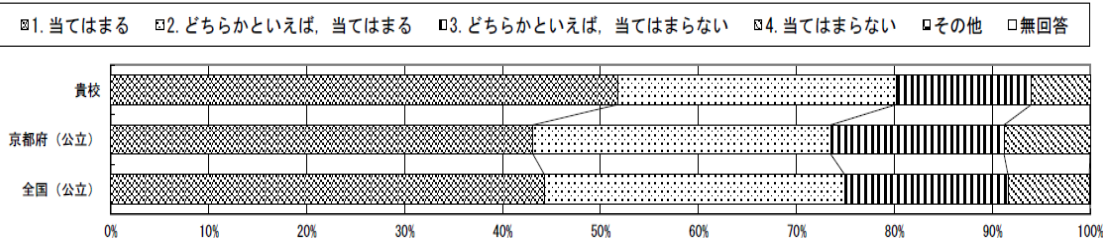


Q. 家で読書を楽しんでいますか。



全国学力・学習状況調査質問紙より（6年生実施）

Q. 読書は好きですか。



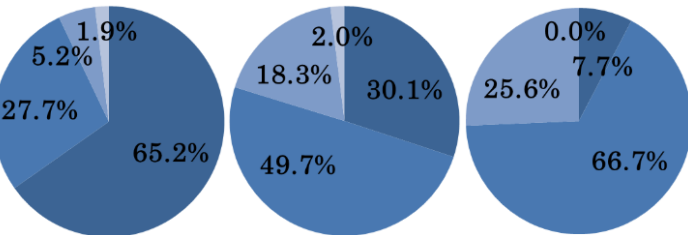
今年度も「学校の勉強がよくわかる」の項目においてはプラス評価が90%を超える高評価となりました。日常的に読解力の育成を重視し、日頃から自分の考えを記述する場面を意図的に授業の中で確保するように努めていることの成果が表れていると考えられます。4月に行われました6年生の全国学力・学習状況調査でも全国平均を大きく上回っている結果が見られました。

読書については、今年度より質問を「家庭で読書を楽しんでいるかどうか」問う項目に変更しました。その結果、読書を楽しむ児童が全国に比べても高い傾向が見られました。しかし、全国学力・学習状況調査の結果からも読書は好きであるが、読書時間が全国平均に比べてやや少ない状況が見られました。これは、習い事や塾等で家庭での読書時間が確保しにくいことが原因ではないかと考えられます。今後も日頃の学校での取組、スマイル21プラン委員会での取組、PTA図書室と歩む会の取組などをきっかけに読書への意識が高めていきたいと思います。学校関係者評価では、「家庭読書は、家庭環境による。親が本を読む姿を見せることが大切で、現在の家庭ではそのような姿が見られるのか疑問だ。」や「子どもたちが読んでいる本の内容にも目を向けられない」といった声が聞かれました。

スマイル21プラン委員会「読解部会」では、今年度も、選書会での「おすすめの1冊教えて！」プロジェクトに取り組んでいただいています。また、PTAの「図書室と歩む会」では、今年度も日常の図書室開館サポートや環境整備に加え、「おはようおはなし会」「わくわくおはなし会」等にも取り組んでいただいています。今年度より学校読書を家庭読書につなげる取組として、家庭で課題図書を読み、感想を交流する取組も始めています。

豊かさ・たくましさを育む教育について

Q. 学校や家、地域ですすんであいさつができていますか。



「あいさつ」については、以前に比べると高いポイントとなっています。ただし、する子、しない子の固定化や目を見てのあいさつができない子がいるなどの課題があります。また、教職員や保護者などが見本となる気持ちのよいあいさつがいつでもできているか、もう一度省みる必要があります。

学校関係者評価でも「以前に比べるとあいさつができてきている子が多くなっていると感じる。」「低学年は丁寧なあいさつができていたが、高学年になるにしたがってあいさつができなくなっている。」というご意見をいただきました。また、地域の見守り隊をしてくださっている方からは、「子どもはしっかりあいさつしてくれるのに、保護者のあいさつがないのが残念。子どもは、身近な大人の姿を見て育つのに、心配だ。」といったお声もいただいております。

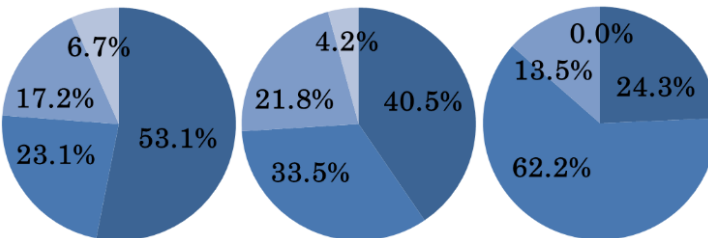
学校での朝のあいさつ運動も今年度はクラスごとに行い、あいさつの気持ちよさを味わったり、質を上げていくためにどうすればよいかを考えたりして、あいさつについて学級で考える機会を設けています。



あいさつ運動の様子

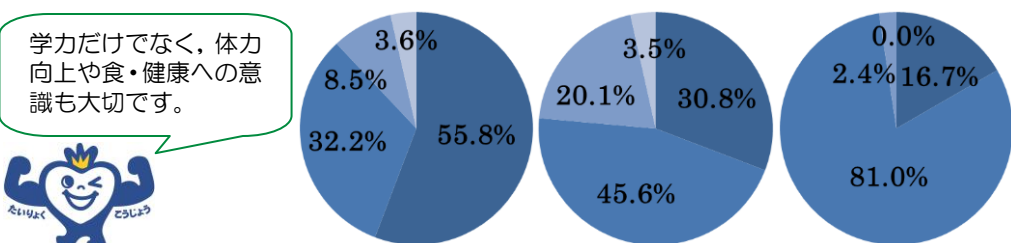
健やかな心と体を育む教育について

Q. すすんで外遊びをしていますか。



中間ランニングに取り組む児童の様子

Q. すききらいなく楽しく食事をしていますか。



学力だけでなく、体力向上や食・健康への意識も大切です。



「進んで外遊び」の項目では、昨年度後半に比べて、ややポイントが上昇しています。これは、日常的に体力向上に向けた取組を行っている成果であると考えられます。しかし、他項目に比べて依然ポイントが低い現状が見られます。これは、放課後、習い事や塾などに通っている児童が多く、外で遊ぶ時間が取れないこと、遊ぶ場所がないことが原因ではないかと考えられます。学校関係者評価でも「校区に外遊びやボール遊びができる場所がない、交通量が多いという大きな問題がある。」「子どもたちを見ていると外遊びが決して嫌いというわけではなく、公園でもよく遊んでいる姿を見るが、遊び方がどうかという点については課題が見られる。」や「体力テストでも少しずつ改善傾向が見られるとはいえ、まだまだ課題が見られるので学校・家庭・地域でできることを考えていきたい。」といった意見をいただきました。

食育・健康教育についても課題が見えてきています。児童からは「給食は好き。」と答える一方、「学校では頑張っているけれど家ではあまり頑張っていない。」や「家では野菜をあまり食べることができていません。」という声を聞きます。また、体力向上についても見られるのですが、傾向の二極化が課題となってきました。学校と家庭との連携をはじめ、課題のある子ども（家庭）へのきめ細やかな見取りや支援をしていけるよう取組を進めたいと思います。学校関係者評価では、「様々な課題に対して、教職員、子ども、家庭、地域、行政の五者それぞれがそれぞれの役割をしっかりと果たしながら、密に連携を取っていく必要がある。」というお声をいただきました。



学校・家庭・地域、三者で
子どもたちの豊かな育ちの
実現を！